

# 日本自殺総合対策学会

## 2025年度総会 議事要旨

1. 日 時: 2026年2月3日(火)16:30~17:00

2. 開催方法: Zoomによるオンライン会議

3. 出席状況: 会員: 31名(委任状20通含む)

### 4. 配布資料

資料1: 2025年度活動報告

資料2: 現在の会員数及び2025年度の入退会

資料3: 2026年度事業計画

資料4: 2026年度収支予算

資料5: 会員アンケートの結果概要

### 5. 議 事:

#### (0)開会

(定足数の確認)

・普通会員85名のうち(定足数22名に対して)、理事および監事を除いても11名の出席および20名からの委任状提出があり、委任状を含めて出席者:31名(理事・監事は除く)で会議が成立した。(定款第17条)

#### (1)2025年度の活動報告

・椿理事長より、資料1「2025年度活動報告」に基づき、2025年度の学会活動についての報告があった。まず、理事会は企画等の承認のため、メール審議を含めて計6回開催したことが報告された。また、主要な活動として、夏季講演会(渡辺由美子氏、約580名参加)と、11月の秋季講演会(渡邊美代子氏、480名参加)を実施した旨が説明された。さらに、第5回大会として「こども若者支援、グリーフケアから『孤独・孤立』を考える」をI部・II部で実施したことが共有された。いずれの講演会も、学会として今後を考えるうえで訴求力が高く、貴重な情報交換の機会になった、との総括があった。

#### (2)2025年度の会員の入退会について(報告)

・椿理事長より、資料 2「現在の会員数及び 2025 年度の入退会」について報告があった。直近の理事会では会員数を 90 名としていたが、普通会员として承認済みの 2 名が集計から漏れていたため、正確には会員数は 92 名(内訳:普通会员 85 名、学生会員 7 名)であるということが説明された。学会は当初 43 名で発足し、現在は 92 名まで増加していることが共有され、あわせて、今年度の入会者は 18 名に加えて直近承認分 2 名があり、退会または資格喪失は 5 名だったことが報告された。これらの増加は、会員の協力や学会活動の積み重ねによるものとして、感謝の意が示された。

### (3) 2026 年度事業計画及び予算(報告)

・椿理事長より、資料 3「2026 年度事業計画」について説明があった。自殺総合対策に関わる自治体や市民活動の課題を取り上げ、忌憚なく議論できる場を創出する方針である。現場の活動と学術を有機的に結び付け、実効的な対策を現場から提案できる「総合知」としての学会形成を目指す旨が説明された。政策形成と現場をつなぐ活動として、科学技術振興機構(JST)関連プロジェクトとの共同を継続する方針も示された。一方で当該研究班の活動期間が残り約 2 年であることから、学会の財務体質改善にも取り組む必要があるとされた。事業の柱として、政策研究会等の政策研究に関わる活動を実施することが挙げられた。あわせて講演会を継続し、抽出された課題を講演会の場で議論する従来の仕組みを維持する方針である。年次大会は 2027 年 3 月頃の開催を予定するとされた。さらに会員が少人数で自由に議論できる場を、随時ネットワーク的に形成していく考えが示された。孤独・孤立対策を支援するネットワーク形成や、メーリングリスト整備による会員間の日常的な情報交流強化も計画に含まれると報告された。

・会計担当の生水理事より、資料 4「2026 年度収支予算」について報告があった。資料は令和 7 年度第 6 回理事会(2026 年 1 月 14 日)に承認された予算に、その後の入出金を追加したものであると説明された。収入は普通会员 80 名分の会費 240,000 円と学生会員 7 名分 7,000 円の計 247,000 円とされた。これは未納分等も加味して理事会時点で想定した金額であり、次年度の入会者により増加する可能性があるとも述べられた。前年度繰越金 745,998 円を加え、収入総額は 993,002 円である。支出はホームページ管理費 132,000 円が最大項目である。次いで Zoom ウェビナー代(3 回分)84,000 円が計上され、その他に消耗品、通信費、印刷費、雑支出等が見込まれるとされた。大会・講演会運営費は、JST プロジェクトとの共催により抑えられている状況である。次年度繰越金は 739,000 円で、支出総額は 993,000 円となり、収支は概ね均衡しているとの報告であった。

### (4) 本学会のこれからの活動及び運営について(意見交換)

森野監事より、資料 5「会員アンケートの結果概要」に基づいて、会員アンケート結果の要約が示され、回答は 9 件で、これまでの活動は概ね肯定的に受け止められているとの説明があった。あわせて、会

員周辺の活動紹介として、会員が所属している組織が挙げられ、講演・ワークショップ・政策研究会等で扱う可能性が示唆された。交流促進策として、講演会中心の活動に加え、会員同士が緩やかにネットワークを形成するため、まず会員向けのメーリングリストを立ち上げる案が共有され、会員外にも開放する可能性と、誹謗中傷防止等のガイドライン整備が必要であることが確認された。

・意見交換では、会員から、体験知・実践知と学術知をつなぐ理念への共感が示され、研究者と実践者が交流する具体企画を増やし、研究者の関与をより高めるべきとの意見が出た。また、地域単位(例:東京・関西)で小規模な研究会・報告会を行う案と、メーリングリストにより会員像が見える化されることの重要性が述べられた。さらには、所属している組織と学会との連携を模索したいとの提案もあった。

・椿理事長から、役員懇談会で頂戴した意見をさらに議論して今後の運営に生かす旨が述べられ、近日中に役員懇談会を開催し、希望する会員の参加も歓迎する方針が示された。結論としては、メーリングリスト等による日常的な情報交流の強化と、外部団体との連携や研究者・実践者の交流機会の拡充を、役員懇談会等で具体化していく方向で整理された。

#### (5)その他

・特になし

以上、この議事要旨が正確であることを承認する。

2026年3月30日

日本自殺総合対策学会 理事長 椿 広計

理事 岡 檀

理事 生水 裕美